

Case 1 株式会社ビーシステム

## ケア記録をモバイル端末でオンタイム入力 業務全体で大幅な省力化・効率化を実現

介護業務管理ソフト「ファーストケア」シリーズを展開する株式会社ビーシステムは、今年新たにiPhone・iPadなどのモバイル端末を使いケア記録の入力ができる「ファーストケア・ポータブル」をリリース。現場の声をもとに機能を拡充させてきた同製品について、導入施設である「老健リハビリよこはま」の事例とともに紹介する。



iPadおよびiPhone/iPod touchによるメイン画面。iPadは画面が大きく個別入力・集団入力に対応、iPhone/iPod touchは画面が小さく個別入力のみ。施設・事業所の運用に合わせて使い分けができる

iPadによる「食事摂取記録」(写真上)および入浴記録画面。一括設定による集団入力ができるため、施設内でフロアをまわった入力作業が非常に便利。すべての記録紙をiPad 1台で代替できる  
製品詳細: <http://www.fc-soft.jp/info/2011401-1.pdf>

### 5種類の記録を現場で入力 ボタン一つで情報共有

在宅・施設問わず介護保険サービス全般を網羅する「ファーストケア」シリーズは、これまで現場の声をきめ細かに反映する形でバージョンアップを重ねてきた。その過程で、「紙による転記作業の解消」「他のスタッフとのタイムリーな情報共有」などの要望が多かったことから、「ケア記録の電子化をいかに現場で使いやすい形で実現したらよいか。その1つの答えとして送り出すのが「ファーストケア・ポータブル」です」とビーシステムの笠原正博代表取締役社長は言う。

同製品は、iPadやiPhone、iPod touchなどのモバイル端末を活用し、現場での記録システムへの記録(入力)を可能にしたケア記録アプリケーションだ。「経過記録」「食事・水分摂取」「バイタル」「入浴」「排泄」の5種類の記録

を利用者の目の前で入力し、そのデータを送信することでサーバー上のデータを更新、パソコンや他のモバイル端末より情報を共有できる。「施設内で無線LAN環境の整備されていない部屋もありまから、モバイル端末上で記録を保存できるようにしています。あとは、無線LAN環境のつながっている場所で送信ボタンを押せば、他の職員と最新情報の共有ができるのです」(笠原社長)

### 一括入力で省力化 写真・音声データの活用も

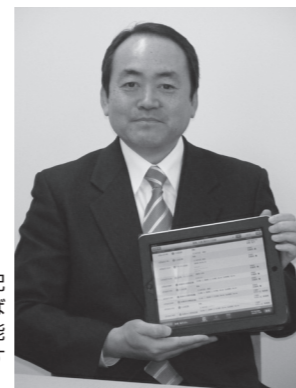
入力作業については、写真のように入力作業は面倒」と思われるかもしれないが、実際にiPadやiPhoneなどのタッチパネル端末で入力してしまえば、いかに違和感ない操作で簡単に入力できるかがわかるはずだ。「紙の記録との違いは、最

新の情報が入り、つまり上下逆転していることくらいです。紙から電子に移行しやすいよう心がけて設計しています」と笠原社長は強調する。

また、記録作業において電子ならではのメリットもある。1つは、設定した初期値による一括設定(「Padのみ」が可能なことだ。特に食事や入浴実施記録などは効果的で、まず対象のグループを一括入力し、異なる情報を部分的に修正すればよいので、記録の手間はぐんと減る。

もう1つは、新しい記録の概念として間もなく対応予定の「写真」「音声」データの活用だ。Padに撮影機能はないが、iPadより写真・動画の撮影機能が搭載される。これにより、現場でiPadやiPhoneを使って利用者の状態を撮影し、記録情報に付加できるのは大きな魅力だろう。

「入所から退所まで継続的に画像データを残しておくことで、状態の推移からリハビリ効果まで、客観的な判断が可能になります。また、本人・家族などの思い違いから職員を守ることも役立つと思います」(笠原社長)



「介護現場における記録の電子化は、やればやるほど新たな可能性を感じます」と話す笠原社長

そして、当然ながらこうして記録されたデータは、すべてファーストケア本体と連動して蓄積される。つまり、入所者管理やサービス計画作成、レポート処理、統計情報の管理などで2次利用されるため、業務全体で大幅な省力化・効率化が図られることがわかるだろう。

### オンタイム入力 記録のまとめ作業を解消

では、実際に同製品を導入した施設の反応はどうだろうか。その1つ、医療法人社団愛優会「老健リハビリよこはま」では、以前より記録業務の効率化を課題に挙げ、IT化への取り組みを模索し

てきたという。そこで、同社のファーストケアを導入、共同でiPadとiPhoneを用いた介護記録の実践を進めてきた。「従来であれば、どうしても月末に記録のまとめ作業をしてしまいがちですが、IT化でオンタイム入力になりますから、業務フローそのものをつくり直す必要がありません。それにより、もたらされる効果は多大了」と笠原社長は言う。

業務までできてしまう。情報共有・管理も大幅に向上し、同施設では今後、さらにIT化を推進していく予定だという。「かつて、パソコンに泣かされた人も多かったと思います。しかし、IT技術も進歩し、ポータブル端末ならビジュアル的に、誰でも容易に操作できますから、敷居は非常に低くなったと思います。IT化には、事業者・利用者・家族すべてにメリットを与える無限の可能性があり、「ファーストケア」もまだまだ進歩していきます。ぜひ皆様には積極的なITの活用を検討してほしいですね」(笠原社長)



ファーストケア・ポータブルで記録業務のIT化を実現した「老健リハビリよこはま」。iPadの導入は現場スタッフにも好評

[法人データ]  
株式会社ビーシステム  
川崎市麻生区上麻生1-5-2 日土地新百合ヶ丘ビル4階  
TEL: 044-959-5885 URL: <http://fc-soft.jp/>  
医療法人社団愛優会「老健リハビリよこはま」  
横浜市旭区金が谷614-3  
TEL: 045-369-7711 URL: <http://aiyukai.com/>